



## 第 2 部

### 基本構想

# 1 まちの目指す姿

## (1) まちの将来像設定にあたり

本町ではこれまで、将来像である「砥部焼と豊かな自然、みんなで創る陶街道」を実現するため、住民と行政との信頼でつくる地域経営システムを構築しながら、「保健・医療・福祉分野」、「生活環境・都市基盤分野」、「教育・文化分野」、「産業・観光分野」の4つの分野別施策を進めてきました。

また、先人の志を受け継ぐ強い意志である町民憲章は、長い時を経ても町民の心を打ち、本町のまちづくりの基盤となっています。

そこで第2次総合計画においては、本町がこれまで培ってきたまちづくりと特性を踏まえた将来像を設定します。

### 町民憲章

わたしたちは、清流とほたる、砥部焼とみかんの町の町民です。  
輝かしい伝統を受けつぎ、誇りと責任を持ち、よりよい町をつくるため、  
みんなでこの憲章を守りましょう。

- 1 体と心をきたえ、健康で活気あふれる町をつくりましょう。
- 1 教養を高め、明るいりっぱな町をつくりましょう。
- 1 自然を守り、美しい町をつくりましょう。
- 1 仕事にはげみ、豊かな町をつくりましょう。
- 1 みんな笑顔で、平和で安全な町をつくりましょう。

### 将来像を構成する要素

- 砥部焼や柑橘という地場産業があること
- アートについて、学ぶ環境があること
- 生活様式、芸術などの伝統や豊かな自然を守り受け継いできたこと



文化

- 教養を高め、明るいまちを目指してきたこと
- 地域でのつながりの強さがあること
- 本町に住む人があたたかさを持っていること



こころ

## (2) まちの将来像

本町は、「砥部焼」と「みかん」の産地として発展してきました。発展してきた中で、豊かな自然と快適な住環境との調和を図りながら、住民の安全で安心な暮らしを実現するため、まちづくりを進めてきました。

住民が築き上げてきた文化と、まちを形成する住民のあたたかさは本町の大きな特徴であり、協働でまちづくりを進めるための財産となっています。

そのようにして築き上げてきた文化と住民のあたたかさで、まちへの愛着と誇りをますます高め、すべての住民が住み続けたいと思うまちを目指します。

### 将来像

## 文化とこころがふれあうまち

### (3) 将来像実現に向けた4つの要素

将来像実現に向けて、まちづくりを4つの要素に分けて推進します。

本町に住む全ての住民が感じる心と体の**安らぎ**



やすらぎ

本町の未来を担う人が育ち、生涯にわたり  
学びがある**育み**



はぐくみ

人々の交流や産業の発展により本町に  
生まれる**彩り**



いろどり

本町の暮らしの利便性を高め、都市機能  
としての**基盤強化**を図る**快適**



かいてき

# 1

## まちの目指す姿

### 4つの要素のあり方



#### やすらぎ

- 健康・福祉分野
- 安全・安心分野



### 生活者視点



#### はぐくみ

- 子ども・教育分野
- 生涯学習分野
- 文化・スポーツ分野



#### かいてき

- 社会基盤分野
- 生活・環境分野
- 行財政分野



#### いろどり

- 産業分野
- 観光・交流分野



### まちの発展

4つの要素を好循環させることにより

シビックプライド※の醸成につながる

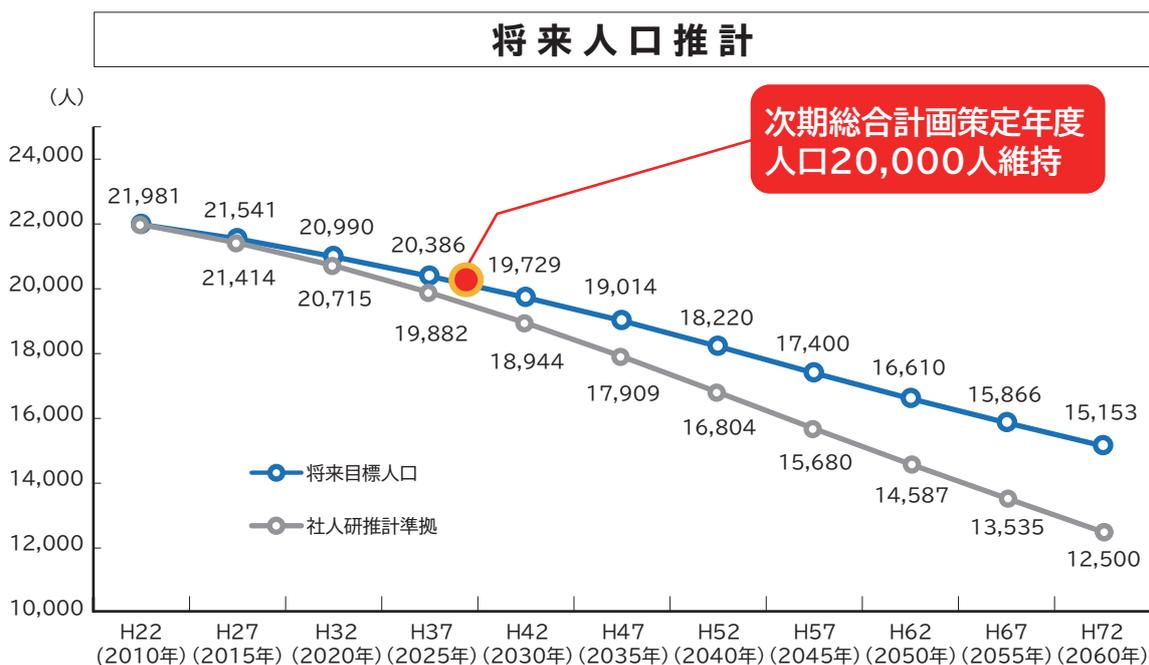
※シビックプライド：まちへの愛着や誇り

### (4) 人口目標

本町の将来人口は、社人研において、平成 37 年（2025 年）に 19,882 人に減少すると予測されています。本町人口ビジョンでは、出生率を向上させ平成 52 年（2040 年）までに 1.72、年齢別の出生率の 20 歳後半から 30 歳代を引き上げ、社会移動を均衡にすることで、平成 72 年（2060 年）の目標人口を約 15,000 人としています。

本計画においては、本町の人口ビジョンを踏まえ、計画期間の最終年となる平成 39 年（2027 年）に人口 20,000 人維持を目標とします。

## 2027年の目標人口 20,000人維持



## 2 まちづくりの共通テーマ

### (1) まちづくり共通のテーマの設定

本町の掲げる重点課題に対して、目指すまちの姿を実現するために、まちづくりの共通テーマを設定します。

本町の重点課題

- ①少子高齢化による人口減少対策
- ②協働によるまちづくり
- ③安定的な行財政運営

#### 人と地域のつながりを活かした協働によるまちづくり（協働）

社会情勢の変化により住民のニーズが多様化する中で、まちづくりにおける「協働」というキーワードは、なくてはならないものとなっています。地域のつながりがある本町の強みを活かし、協働によるまちづくりを目指します。

#### 誰もが住みやすく、住みたいと思えるまちづくり（移住・定住）

人口減少対策として地方創生が本格化する中で、本町においても、「選ばれるまち」となるためには、誰もが住みやすく、住みたいと思えるまちになることが重要です。そこで、町外からは「住みたい」と思えるまち、町内では「住み続けたい」と思えるまちを目指します。

#### 将来にわたって持続可能なまちづくり（行財政運営）

本町は、実質公債費比率や経常収支比率などの基準から判断すると、愛媛県内でも比較的良好な財政運営状況となっています。しかし、人口減少に伴う歳入減や公共施設などの維持管理費増を考慮すれば、決して楽観視はできない状況です。そのような中、本町が有する資源を活かしたふるさと納税の推進や補助金などを活用した歳入確保はもちろんのこと、事業の選択と集中、業務の効率化などによる歳出の抑制を図ることで、将来にわたって持続可能なまちづくりを目指します。

## (2) 共通のテーマの取組内容

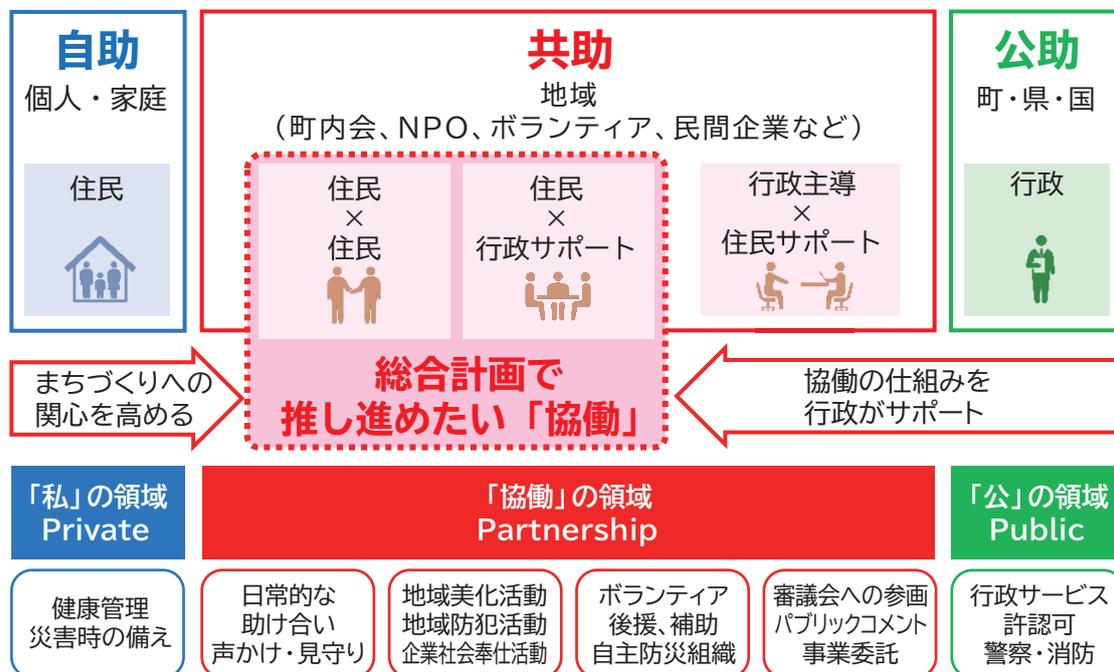
### ①人と地域のつながりを活かした協働によるまちづくり(協働)

本町ではこれまで、将来像である「砥部焼と豊かな自然、みんなで創る陶街道」を実現するため、住民と行政との信頼でつくる地域経営システムを構築しながら、「保健・医療・福祉分野」、「生活環境・都市基盤分野」、「教育・文化分野」、「産業・観光分野」の4つの分野別施策を進めてきました。

しかし、人口減少問題が本格化し、人口が減り財源確保が難しくなる本町におけるこれからのまちづくりには、「住民主導・行政サポート型」、「住民自立型」の協働を押し進めていくことが重要です。

本計画の基本計画において、協働の基本的な考え方や必要性などを町職員だけでなく、まちづくりに関わるすべての人が共通の認識を持つとともに、協働の仕組みを構築していくことで、さらなる協働のまちづくりを進めます。

#### ■協働のまちづくりイメージ



### 【視点】多様な人々が連携分担する地域社会の形成

- 女性の活躍促進
- ワーク・ライフ・バランス\*の推進
- 男女共同参画の実現を目指す教育・学習の推進

\*ワーク・ライフ・バランス：国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会

## 2 まちづくりの共通テーマ

### ②誰もが住みやすく、住みたいと思えるまちづくり（移住・定住）

かつて本町は、県都松山市に隣接していることから、人口が年々増加していました。しかし、近年では、転出超過が常態化しており、人口減少に歯止めをかけるためには、「住んでみたい」、「住んで良かった」と思われるまちになることが求められています。

本町では、「あそびべ、とべ。」をコンセプトにブランドマークを作成し、まちのブランド化を目指しています。

こうしたことから本町は、住環境の充実や新たな人の流れをつくるための交流促進を図り、「選ばれるまち」となるためのまちづくりを進めます。

#### 【視点】シティプロモーション※の推進

- 「選ばれるまち」となるための情報発信
- 暮らしやすさを感じる利便性の向上
- 観光施策をきっかけとした交流促進

### ◆砥部町ブランドマーク

あそびべ、とべ。



5つ唐草が表す砥部の多様性

5つのいいところ

「人」「自然」「産業」「文化」「歴史」

5つの自慢

「山」「川」「里」「技」「味」

5つの特産品

「七折小梅」「自然薯」「高原野菜」「柑橘」「砥部焼」

梅と唐草、5つ唐草が表す5つの遊び



1 競う（技を競う、味を競う）

砥部焼、七折小梅、地酒、農作物、フルーツ



2 演じる（まねる、学ぶ）

絵付け体験、農村工芸体験、動物園、文化施設



3 かける（未知に挑む、偶然にかける）

山村留学、スポーツ、散策、サイクリング



4 感じる（感動、アート）

しょうじょう 衝上断層、ほたる、アートの里、陶板の道



5 創る（創作、イベント）

砥部焼まつり、七折梅まつり、創作館、こどもの城

※シティプロモーション：地域再生、観光振興、住民協働など様々な概念が含まれており、地域住民の愛着度の形成や地域の売り込みや自治体名の知名度の向上など、自らの地域のイメージを高め経営資源の獲得を目指す活動

### ③将来にわたって持続可能なまちづくり（行財政運営）

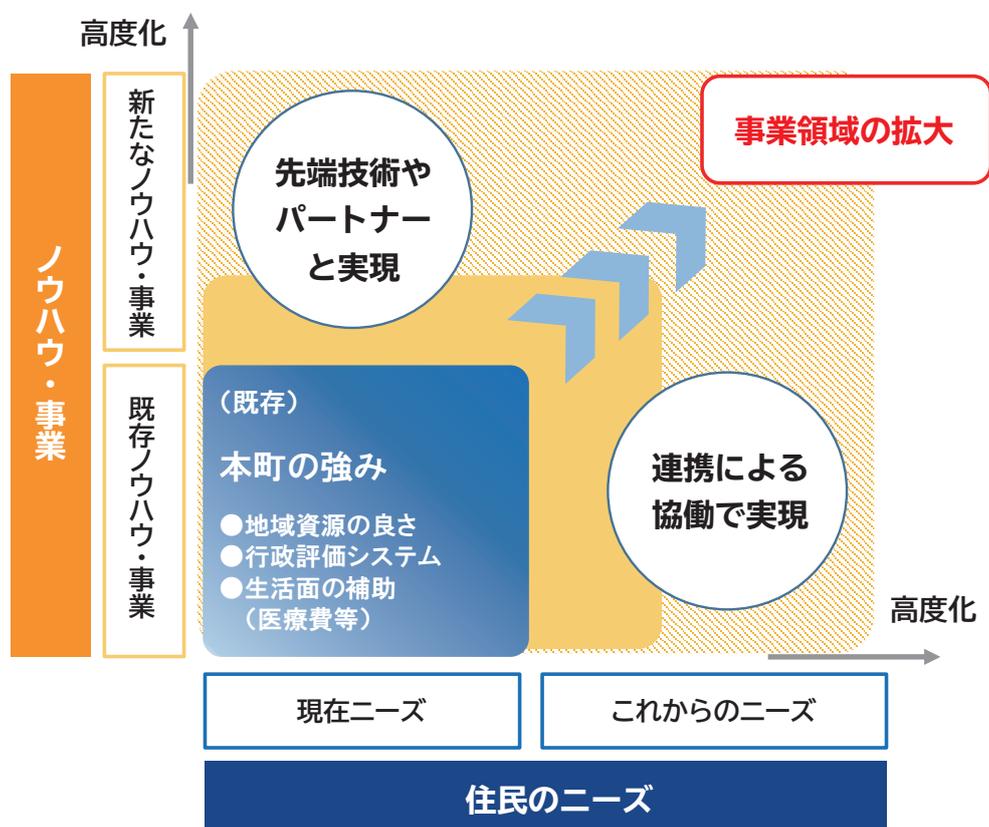
本町は、砥部焼をはじめ、豊かな自然、農作物など町内外に誇れる多くの資源を有しています。これらの資源を有効活用しながら、ふるさと納税の推進や観光振興、移住促進などの施策を展開することで、町の歳入を増加させていく必要があります。

また、事業の実施にあたり、これまでの「あれもこれも」から「あれかこれか」へ移行する「選択と集中」という考え方を、職員はもちろん住民にも理解してもらう必要があります。

さらに、ICTの利用促進や県及び近隣市町との連携により、業務を広域化及び効率化することで、二重行政の解消及び経費節減を図り、将来にわたって持続可能なまちづくりを目指します。

#### 【視点】まちを経営するトータルマネジメント

- 政策・施策の進捗管理（PDCA）の推進
- 情報通信技術（ICT）の利用促進
- 県及び周辺市町との連携による広域化の促進及び業務の効率化



# 3

## 分野別目標

将来像実現に向けて、まちづくりの4つの要素に10の分野別目標を設定し、施策を推進します。



### やすらぎ

本町に住む全ての住民が感じる心と体の安らぎ



実現に向けた目標

#### 【健康・福祉分野】

目標1 だれもが地域で幸せに暮らすことができるまちを実現します

#### 【安全・安心分野】

目標2 防災・防犯に取り組み、安全で安心して暮らすことができるまちを実現します



### はぐくみ

本町の未来を担う人が育ち、生涯にわたり学びがある育み



実現に向けた目標

#### 【子ども・教育分野】

目標3 未来を担う子どもたちが、たくましく健やかに育まれるまちを実現します

#### 【生涯学習分野】

目標4 身近な学びと交流により豊かな心が育まれるまちを実現します

#### 【文化・スポーツ分野】

目標5 文化・スポーツ活動により感性が育まれるまちを実現します



## いろどり

人々の交流や産業の発展により  
本町に生まれる彩り



実現に向けた目標

### 【産業分野】

目標6 多彩な地域資源を活かし、人や地域が潤うまちを実現します

### 【観光・交流分野】

目標7 多くの人々が訪れる交流の活発なまちを実現します



## かいてき

本町の暮らしの利便性を高め、都市機能としての基盤  
強化を図る快適



実現に向けた目標

### 【社会基盤分野】

目標8 快適な住民生活を支える社会基盤を実現します

### 【生活・環境分野】

目標9 豊かな自然と共に生きる環境整備を実現します

### 【行財政分野】

目標10 人々の生活を支えるため、持続可能な行財政運営を実現します

# 4 計画の全体像

